オリエント急行の終着駅
イスタンブルから旅が始まる

1時間ほど、イスタンブルのサンセットを青空に浮かぶユレイマニエ・ジャーミィのミナレットが美しい

イスタンブルのシンボル、アヤソフィアをバックにまるトラムバイ(路面電車)

駅(シルケジ駅前エミノニュ埠頭)は旅するオリエント急行のフィナーレ

エノ(1874年開業、オリエント急行の客車に愛されたイスタンブル名店街のホテル・ペラパレス。エとア/アガサ・クリスティが滞在したお部屋、室内にはアガサの白黒写真やご対面を飾る客車が並んでいる

エノ/オリエント急行の終着駅イスタンブル-シルケジ駅。現在は工事中で列車の発着はないが、アエエ/シルケジ駅内のレストラン・オリエント・エクスプレス、アガサ・クリスティの愛用カエイター急のし、注意写真にもっとも近い場所からご撮影いただけ

イスタンブルの
魅力を動画で!

はたナビ
Channel

ずいぶん前に、読んでイスタンブールという街が気になった、駅とは思えない伝説的な駅、最後にかかったのは、エキゾチックな名前と響き、リズミカルな動きなどから脳裏にぴかぴか、あれから何年経ったのだろう、

世界でもなく、イスタンブルは紛う方なき都市であり、ヨーロッパとアジアの交差点には雑踏する街であり、西洋と東洋が共存し、混在している、これはどエキゾチックな都市は、世界広しといえどもほかにあるまい。

イスタンブルといえば、忘れることのできない名所旧跡があった、「オリエント急行」だ、オリエント急行は1877年創業の1883年に誕生した、当時の最高級はパリ、最終駅はコンスタンチノープル、今日のイスタンブルである、ヨーロッパとアジアの文明を結ぶ初の国際列車として誕生したわけだが、名門ワゴン・リー社による白羊の皮にはトルコ製が最も品質が高く、世界一の豪華列車と呼ばれた、乗客には、ルーマニアのカロル国王、ギリシアのゲオルギウス国王、ブルガリアのボリス3世などの王族も頻繁に、貴族、政財界人、小説家など、ミステリーの女王アガサ・クリスティもその一人であった。

アガサ・クリスティは名作『ナイルに死す』の舞台のひとつとしてオリエント急行を利用しイスタンブルを舞台にも描いている、オリエント急行から降りてから約1シルケジ駅で、常宿はホテル・ペラパレスの411号室、申請なことに、今回この部屋に泊まることができた、お目当ての窓と思いの内装の部屋で、小説家はこのベランダから通勤客を眺めながらミステリーの構想を練ったのであろうか、オリエント急行は惜しまれながらも、1977年廃止のオリエント様式のシルケジ駅は今も健在だ、懐かしいことに駅の中にレストラン、そのものも、オリエント・エクスプレスがあり、アガサの名作品の世界観でオリエント急行旅人気分のお食事ができるのだ。

シルケジ駅前のエミノニュ埠頭からは今も、ボスポラス海峡フェリーが出ている、ヨーロッパからアジアへと向かう、船旅はトルコリラというお得な船賃だ、トルコの大地を航海する今日の旅は、オリエント急行の最終駅イスタンブルから始まる。